



208 Smiles

2022年FIFAワールドカップ™日本。

世界はかつて経験したことのない、サッカーの本質的な魅力を
“体験”することになるだろう。

そこでは、FIFAに加盟する208の国と地域をはじめ、
すべての人々が国や民族、文化、言語の壁を超えて、
ワールドカップの感動と喜びを分かち合うことになる。

貧困や差別、健康などの問題により観戦の機会を奪われることなく、
すべての人が、笑顔でワールドカップをともに楽しむことができる。
地球上の隅々にいたるまで、“笑顔をもたらすワールドカップ”。

—それが、日本の2022年FIFAワールドカップ™である。

FIFA WORLD CUP™ THE NEXT GENERATION produced by JAPAN

“208 Smiles”の 実現に向けて

日本は、“208 Smiles”を実現するため、世界サッカーの革新的かつ持続的な発展を担保する、“次世代ワールドカップ”を開発する。サッカーの発展と社会と人の持続的発展という命題を確実に実行するため、そして“208 Smiles”実現のため、日本は以下に示す5つの提案を行う。

PROPOSAL 1

最先端テクノロジーによるサッカーコンテンツの革新

Freeviewpoint Vision
Full Court 3D Vision

PROPOSAL 2

スタジアム体験の革新

超臨場感技術

PROPOSAL 3

ファンフェストの革新

Universal Fan Fest in 208 Nations

PROPOSAL 4

インターネット事業の革新

FIFA Hyper Application

PROPOSAL 5

次世代育成活動の革新

208 Kids Dream Japan Tour
208 Kids Dream Workshop
208 Kids Dream 基金

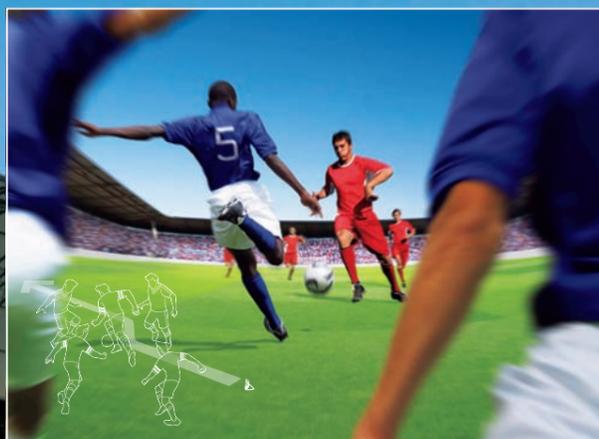
PROPOSAL 1

最先端テクノロジーによる
サッカーコンテンツの革新

世界最先端の“超臨場感技術”が、サッカーの新たな感動と興奮をもたらし、世界の隅々に至るまで“208 Smiles”を生み出す。

Freeviewpoint Vision

- スタンド内360度に設置された、200個の8K高精細カメラが捕らえる“Freeviewpoint Vision”（自由視点映像）は、ピッチ上の選手一人ひとりの動き、ボールの動きを、あらゆる角度から撮影し、圧倒的迫力で観る者に迫る。その臨場感はゲームを観戦するというよりも、ピッチ上にいてそこに参加するという感覚に近い。
- “Freeviewpoint Vision”による映像は、スタジアム内に設置された超高精細大型ディスプレイに映し出され、観客は選手の息遣い、鼓動を感じる距離から、あるいはまさに選手たちの視点から、ワールドカップを“体験”することになる。
- “Freeviewpoint Vision”による映像は、スタジアム内の大型映像システムのほか、ファンフェスト会場のパブリック・ビューイングのスクリーンに映し出すことも可能である。



8K高精細カメラ

スタンド内360度に200個の8K高精細カメラを内蔵、ピッチ上の選手一人ひとりの動き、ボールの動きを、あらゆる角度から撮影。

高感度オムニマイク

ピッチ下に70個の高感度オムニマイクを配備、ボールを蹴る音、フェリーのホイッスル、選手がぶつかり合う音など余すことなく収録。

音力発電システム

スタンド内に音力発電システムを配備、観客の歓声や足を踏み鳴らす音により発電し、屋根等に設置された太陽光発電と合わせ、スタジアムで消費する電力のすべてを賄う。

高性能コンピューティングシステム

高性能コンピューティングシステムによりタイムラグなしに映像、音声を編集及び合成し、スタジアム内の大型映像システム及びテレビ放送画像として全世界に配信。

Full Court 3D Vision

- スタンド内360度に設置された200個の8K高精細カメラが、ピッチ全体を俯瞰した映像を捕らえ、平置き型の巨大ディスプレイに3Dで再現する。
- 平置き型ディスプレイの平面上に浮かび上がった立体映像は、360度どの角度からも、特殊なメガネをかけることなく裸眼で観ることができる。
- “Full Court 3D Vision”は、ファンフェスト会場用のディスプレイとして用いられ、従来のパブリック・ビューイングの概念を劇的に変化させる。巨大ディスプレイ上に躍動する選手を見た瞬間、観客は実際のスタジアムにいるかのような臨場感に圧倒されることになる。

“Freeviewpoint Vision”と“Full Court 3D Vision”によって提供される、驚くべきサッカーコンテンツは、スタジアムの体験を永遠のものに変え、また、FIFAに加盟する208の国と地域すべてのファンフェストに配信される。さらには、インターネットとモバイル端末によって、10億人という空前の数の人々が、FIFAワールドカップ™の興奮と喜びを分かち合うことを可能にする。

PROPOSAL 2

スタジアム体験の革新

日本の超臨場感技術とホスピタリティによって、スタジアム体験が新たな次元へと進化する。

超臨場感技術

眼下のピッチ上で繰り広げられる激闘を直接五感で感じること。それがスタジアム体験価値の根源であり、いままでもこれからもその価値は変わらない。しかし、このピッチでの激闘をさらに五感で感じることができたとしたら、ワールドカップのスタジアム体験は比類ない価値をもつだろう。

超臨場感技術の集積により、サッカーの持つ本質的な魅力を最大限に引き出し、スタジアムで観戦する400万人の熱狂と興奮を極限にまで高める。



スタジアム観戦AR (Augmented reality) サポート機能を活用すれば、ピッチ上の選手の情報が瞬時に得られる。

“Freeviewpoint Vision”による中継

それを、“Freeviewpoint Vision” (自由視点映像) による中継が可能にする。スタジアムに設置された大型ビジョンと新しいサウンドシステムにより、観客はスーパープレーをあたかもスタンドではなく、ピッチの選手のすぐ近くで観るように、あるいは選手の視点から味わうことができる。観客はゲームに没入するとともに、激闘する選手たちへの共感は極限へと高められ、スタジアムでのライブ体験の質をさらに向上させるであろう。

音声自動翻訳システム

その他に、50か国語以上に対応可能な音声自動翻訳システムにより、観客同士のスタジアムやその周辺での言語の壁を超えたコミュニケーションをシームレスにし、サッカー観戦体験だけではなく、最高の試合によって誘発される来場者同士のコミュニケーションを促進する。



50か国対応の音声自動翻訳機能を活用すれば、言葉の壁を気にすることなく、世界中のサポーターとの交流を楽しむことができる。

PROPOSAL 3

ファンフェストの革新： Universal Fan Fest in 208 Nations

日本の超臨場感技術とホスピタリティ、事業実現能力によって、ファンフェストは全世界開催というかつてないスケールへと進化する。

日本は、“208 smiles”の実現を確実なものとするための中核的戦略として、“Universal Fan Fest in 208 Nations”を提案する。

“Universal Fan Fest in 208 Nations”は、従来のFIFAファンフェストを拡大し、FIFAに加盟する208すべての国と地域に、ワールドカップの素晴らしさを体験できるファンフェストを設置する計画である。

“Universal Fan Fest in 208 Nations”には、超臨場感技術を用いた、“Freeviewpoint Vision”（自由視点映像）や“Full Court 3D Vision”（ピッチ全体を俯瞰する3D映像）が配信される。

“Universal Fan Fest in 208 Nations”に集う人々は、それらの映像を観ることにより、あたかも日本のスタジアムにいるかのような臨場感の中で、FIFAワールドカップ™の喜びと感動を体験することができる。そして、日本のスタジアムの観衆と一体となった熱狂と興奮に包まれ、その喜びを共有することができる。

“Universal Fan Fest in 208 Nations”は、全世界約400箇所に設置され、FIFAワールドカップ™の体験者数を飛躍的に拡大する。その数はおよそ3億6000万人と想定され、全世界におけるサッカーの普及・発展に革新的な効果をもたらす。同時に、FIFAワールドカップ™の人気、価値及び社会に及ぼす絶大な影響力をより確かなものとするであろう。

加えて、FIFAワールドカップ™の持つ普遍的な性格を活用して、社会と人の持続的発展に貢献するという、FIFA CSR活動の理念及び戦略を一層明確なものとするができる。

“Universal Fan Fest in 208 Nations”は、208の国と地域の人々がワールドカップの華やかで熱狂的な祝祭を楽しむだけでなく、ワールドカップを通じてFIFAが展開する“Football for Hope”ムーブメントの全世界的な拡大と持続的な発展を意図している。

約400の都市に設置＝3億6000万人の観衆

400 locations = 360 million people

PROPOSAL 4

インターネット事業の革新： FIFA Hyper Application

日本の超臨場感技術、コミュニケーション技術が、インターネットによる新たなサービスとビジネス領域を拡大する。

2022年FIFAワールドカップ™では、スタジアムの観客、ファンフェスト参加者、そしてインターネットを通じた世界中の視聴者が、サッカーを楽しむための様々なサービスやコンテンツを個人の端末から得ることが可能になるだろう。

日本は、それを可能にする“FIFA Hyper Application”を、FIFAと共同で開発することを提案する。このアプリケーションは、“Freeviewpoint Vision”（自由視点映像）を世界中の視聴者に提供して楽しませることを可能にするとともに、FIFAワールドカップ™の経験をより素晴らしいものとする様々なサービスを提供する。

“FIFA Hyper Application”の目的は、FIFAワールドカップ™の情熱やサッカーの楽しさを、インターネットを通じてより多くの人々に伝えることである。このアプリケーションは、世界中のサッカーファンに新たなワールドカップ体験を提供し、言語に制限されることなく、サッカーファミリーによる強固なコミュニティの形成を可能にする。

世界中のインターネットユーザーの急激、かつ継続的な増加により、全世界におけるFIFAワールドカップ™の視聴者数は、今後飛躍的に拡大するであろう。そして、“FIFA Hyper Application”の開発及びサービスの提供により、全世界で延べ10億人がインターネット課金

コンテンツを購入し、大会終了後も持続的にFIFAによるマーケットの成長・拡大をサポートするであろう。

“FIFA Hyper Application”は、“Freeviewpoint Vision”の視聴を可能とするほか、携帯電話などのデバイスにインストールする機能も搭載し、以下に示すサービスを付加することが可能となる。

- ・ デジタルチケットシステム（観戦チケットと交通機関の乗車券の統合など）
- ・ 電子マネー（クレジットカードとしての支払や決済）機能
- ・ スタジアム観戦AR（Augmented reality）サポート（スタジアム等へのGPS誘導、試合解説など）機能
- ・ 50か国語対応の音声自動翻訳（リアルタイムで音声による翻訳対応）機能

観客は、“FIFA Hyper Application”をインストールした携帯電話1つを持つことで、チケットや財布を持たずに日本国内での観戦や移動を快適に行うことができる。また、言葉の障壁を気にすることなく、スタジアム内外での各国・各言語のサポーターとのサッカー談義や交流を楽しむことができる。

“FIFA Hyper Application”は、FIFAと顧客である全世界のサッカーファンとをより強く結びつけるCRM（Customer Relationship Management）を可能にし、FIFAワールドカップ™にチケット販売、マーケティング、放送権販売に次ぐ、第4の収益モデルをもたらすことになる。

“FIFA Hyper Application”は、インターネット有料コンテンツ利用者の劇的な増加をもたらすとともに、その他の商業サービスの提供により、FIFAの新たな主要収益事業となる可能性を秘めている。



デジタルチケットシステム



スタンド座席へのGPS誘導



スタジアム観戦AR（Augmented reality）サポートサービス

PROPOSAL 5

次世代育成活動の革新

超臨場感技術と“Universal Fan Fest in 208 Nations”の展開により、子どもたちの未来を育む、世界規模の壮大なプログラムを展開する。

208 Kids Dream Japan Tour

大会期間中、FIFAに加盟する208すべての国と地域から、約6,000人の子どもたちをワールドカップ親善大使として日本に招待する。このプログラムは、下記の活動に参加することにより、国際的な友情を永続的に育むことを可能にする。

- 日本のスタジアムで直にワールドカップを体験する
- 広島、長崎の各都市を訪問し、核の悲惨さと世界の平和について学ぶ
- 世界中の子どもたちと対話するワークショップに参加する
- Kidsサッカー大会に出場する
- 地元の子どもたち及びプログラム参加者との交流

プログラムに参加した子どもたちは帰国した後も、自国の子どもたちと日本で経験した様々な驚きや楽しみ、興奮を共有することができるであろう。



このプログラムで学んだメッセージを世界中に広めることや、同じ感覚を共有することによって、世界の様々な問題についても意識を共有することができるであろう。

208 Kids Dream Workshop

“208 Kids Dream Workshop”は、“208 Kids Dream Japan Tour”に参加する6,000人の子どもたちと、Universal Fan Festのインターネットを通じて、世界中の子どもたちが参加するプログラムである。“208 Kids Dream Workshop”では、世界の平和や環境、そして将来の夢について語り合う。

- 平和のテーマでは、主に“208 Kids Dream Japan Tour”に参加したワールドカップ親善大使の子どもたちが対象となるが、広島、長崎の各都市を訪問し、核の悲惨さと世界の平和について学ぶ。
- 環境のテーマでは、地球温暖化や環境破壊などの現状を学ぶとともに、解決に向けてのディスカッションを行う。
- 将来の夢のテーマでは、世界中から集まったワールドカップの選手たちを講師に、それぞれの夢とその実現に向けての経験を語ってもらい、子どもたちに将来の夢や目標を持つことの尊さを伝える。また子どもたち同士で自らの夢や将来の希望を語り合う。

“208 Kids Dream Workshop”への参加を通じて、子どもたちは自分とはまったく違う生活環境、文化、言語、習慣を持つ子どもたちの存在を知り、お互いの夢を語り合うことで、人種や民族が違って



同じ気持ちを持つ友達であることを認識する。そして、この広い地球上に、自分と同じ夢や希望を持つ多くの仲間がいることに気づくであろう。

208 Kids Dream 基金の設立

2022年FIFAワールドカップ™日本の開催が実現するならば、大会終了後も“208 Kids Dream Workshop”のプロジェクトを持続的に実施するため、FIFAとの協調のもとJFAの出資により、新たに“208 Kids Dream 基金”を設立する。



世界のサッカー、そして社会への貢献 —日本が提供する“次世代ワールドカップ”

2022年FIFAワールドカップ™において日本が目指すのは、2002年に受けた恩恵をできる限り早く世界に返すこと。すなわち、“World Cup of Smiles”を、今度はFIFAに加盟する208すべての国と地域で実現することである。

すでにサッカーが、そしてFIFAワールドカップ™が、社会発展のためのソリューションとして偉大な役割を果たしているように、日本は2022年FIFAワールドカップ™の開催を通じて、そのソリューションとしての価値をさらに高める。そして、FIFAが標榜する「より良い未来を創る」ために、新たな革新的ソリューションを作り出す。その開催理念が“208 Smiles”である。

“208 Smiles”は、2002年FIFAワールドカップ™でみごとに発揮された、日本人一人ひとりが持つ、他者を思いやる“おもてなし”のこころというたぐい希な感性と、サッカーの魅力、ワールドカップの楽しさを極限にまで増幅させる情報通信、映像・音響技術など、最先端のテクノロジーが融合することにより、はじめて実現が可能となる。ヒューマニティとテクノロジーが融合した“次世代ワールドカップ”。それを実現できるのは、唯一、日本である。

世界サッカー発展への貢献

FIFAに加盟する208すべての国と地域に設置される“Universal Fan Fest in 208 Nations”には、“Freeviewpoint Vision”（自由視点映像）が配備される。“Freeviewpoint Vision”は、選手の筋肉の動きまでも詳細に捉えることができ、世界最高峰の選手・チームの技術、戦術、戦うスピリッツをリアルに伝える。

各国・地域のプロサッカー選手をはじめ、ユース年代の選手たち、そしてコーチングスタッフは、戦術分析、技術分析のための絶好のツールを手になることになる。それはやがて、選手たちのプレーの質を向上させ、ナショナルチームの進歩を加速させることになるだろう。

また、ピッチ全体を俯瞰できる“Full Court 3D Vision”の迫力ある映像を通じてワールドカップの興奮と感動を体験した人々は、これを契機に、“観る”楽しみから“する”楽しみへと、興味をかき立てられて

いくであろう。そうした子どもたちや市民レベルから、サッカーのプレーを楽しむ人々が増え、その積み重ねが当該の国・地域のサッカーの裾野を広げることへとつながる。

FIFAワールドカップ™の 事業価値拡大への貢献

日本が提案する“208 Smiles”プロジェクトは、世界のサッカーの発展に貢献することを目的としている。その一方で、2つの側面からFIFAワールドカップ™の事業価値を拡大する。FIFAワールドカップ™の事業価値を拡大することは、すなわち競技会における収益性を高め、FIFAの財政基盤を強化することを意味している。それはやがて世界のサッカー発展のために有効に活用される貴重な財源となる。

- “Universal Fan Fest in 208 Nations”及び“FIFA Hyper Application”による事業収入の確保
- “Freeviewpoint Vision”、“Full Court 3D Vision”による使用権利料収入の確保

“Freeviewpoint Vision”、“Full Court 3D Vision”による高付加価値コンテンツ提供により、欧米など先進国で開催するUniversal Fan Fest やインターネットコンテンツを有料化し、収益を確保する。また、スポーツバーやカフェなどFIFAワールドカップ™の試合中継で集客する施設、マスメディアへの使用権販売、その他スポーツ団体への技術使用権の販売などが検討される。

これらの事業収入、使用権販売の詳細については、今後、商業アフェリエイト、放送権利者等ステークホルダーの意向を踏まえつつ、FIFAと協議の上決定していくものである。

一方、これらの事業収入及び使用権販売収入による収益は、各国・地域に設置した“Universal Fan Fest in 208 Nations”の持続的な運営など、2022年FIFAワールドカップ™のレガシーとして、当該国・地域のサッカーの発展と、よりよい未来を構築するための活動に再投資されることが望ましいと考える。

208=1

889,288

日本のサッカー競技人口 (2008年度登録数)

100%

観客及びスタッフ・ボランティアの公共交通利用率

130,000m²

国際放送センター (IBC) 会場の延べ床面積

0

日本国内における国際テロ事件発生件数 (2001年~)

30,330,000

ブロードバンド利用回線数 (2009年3月末現在)

25%

1990年比2020年温室効果ガス削減目標比率

554,099,000,000,000

日本の国内総生産 (2008年実質値: 円)

4,000

(財) 日本体育協会が認定するスポーツクター数

360,000,000

"Universal Fan Fest in 208 Nations" 参加者見込み数

0

第三者との30万米ドルを超える契約の数

13

提案スタジアム数

3,000

アジアの子供たちに毎年届けられるサッカーボールの数

47

地方行政機関 (都道府県) 数

64

チームベースキャンプ提案数

5,012

抽選会会場座席数

233m²

FIFA役員ホテル客室面積 (ザ・リッツ・カールトンスイート)

84,411

日本の宿泊施設数

30,253,979

新聞メディア (全国紙) 総発行部数

1,735

"JFAこころのプロジェクト" 開催回数

1,000,000+

各開催候補都市人口



日本及び開催都市の紹介

日本の概要

日本は、アジア大陸の東方の沖にある6,852の島々から成り立つ列島である。周囲は太平洋、日本海、東シナ海、フィリピン海、オホーツク海などの海に囲まれており、弓形状の地形は南北に長く、約3,000kmに及ぶ。

日本は、その数1億2,800万人という世界で10番目に多い人口を抱えている。東京都及びいくつかの周辺の県を含む東京首都圏は、3,000万を超える住民を擁する、世界で最大の首都圏である。

日本については、活発な経済活動により東京、横浜、大阪などの大都市がイメージされがちだが、意外にも国土の66%は森林である。都市の外に足を向ければ豊かな自然が存在する。地域によって異なる様々な景観や、四季の変化による自然の移り変わりを楽しむことができる。

日本は、その長い歴史と、四方を海に囲まれているという地理的条件が、世界でも類を見ないユニークな文化を発展させた。たとえば日本画、浮世絵などの美術、能、歌舞伎などの芸能、俳句、短歌などの文学、茶道、華道などの生活文化。そのほか日本庭園や日本建築などである。

さらに、近年、世界的な注目を集めている漫画、アニメーションなどのサブカルチャーを含め、その領域は極めて多岐にわたっている。また、ミシュランガイドで東京が最も三ツ星レストランの多い都市に輝いたように、豊かで多様性のある食文化も忘れることはできない。

開催候補都市の概要

2022年FIFAワールドカップ™開催のために、日本は11の開催候補都市を用意している。

これらの開催候補都市は、いずれも人口100万人以上を有するか、もしくは100万人以上の大都市に隣接した都市であり、FIFAワールドカップ™をホストするにふさわしい十分な社会基盤を備えている。空港、新幹線、高速道路などの輸送インフラはもちろん、高度情報通信ネットワーク、充分な量と格式を備えたホテル、高度な医療にも対応可能な病院など、これらのすべてが既に用意されている。また、安定した社会情勢のもと犯罪発生率が極めて低く、誰もが安心して快適に滞在することができる。

すべての開催候補都市は、一様にハイクオリティなサービスと、最高のコンディションを提供できる。これは、選手及び役員のみならず、メディア・プレス関係者ならびに大会を運営するFIFA代表団及びパートナーに対しても、大会における最高のパフォーマンスと職務の遂行を可能にする環境を保証するものである。

2002年FIFAワールドカップ™では、世界中からの訪問客に対して常に「おもてなし」（暖かい歓迎とホスピタリティ）を提供した日本人の友情と笑顔に対し、FIFAから“World Cup of Smiles”との賛辞を受けた。2022年FIFAワールドカップ™ではさらに進んで、世界のサッカーファミリーとそれを取り巻く国際社会に新たな貢献をしたいと、日本のサポーターたちは既に準備をはじめている。





2022 FIFA WORLD CUP™ JAPAN

次世代スタジアム



大阪エコ・スタジアムは、西日本最大の都市・大阪のまさに中心に建設される



大阪エコ・スタジアム完成予想図

JFA及び日本招致委員会は、世界最高のプレーヤーによる、世界最高のゲームを演出するためには、それにふさわしい世界最高レベルのスタジアムが必要であると考えます。

世界最高レベルのスタジアムとは、安全性や環境に配慮した世界最高の建設技術を用いていること。最先端の放送設備、情報通信設備を備えていること。世界最高水準の警備・安全基準を満たしていること。優れた環境性能を備えていること。そして、選手及び観客にとって最も快適なスタジアムであることである。

日本が提案する13のスタジアムは、いずれもこれらの基本的な要件をすべて満たしている。そればかりでなく、日本が提案するスタジアムは、今後のサッカーの未来を見据えた、サッカー観戦の楽しみをさらに増幅させる次世代のスタジアムである。

同時に、スタジアムで巻き起こるFIFAワールドカップ™特有の興奮と感動の体験を、そのまま世界中の人々と共有することを可能にする、すべてのファシリティを備えている。

人類の祝祭であるFIFAワールドカップ™であるからこそ、人々はその感動の時空間に自らを置き、参加し体験することを“願う”。しかし、現実にはスタジアムのキャパシティが無限にあるわけではない。そうした世界中の人々の、スタジアムの感動に参加したいという“願い”を最大限可能にし、遠方にながらもスタジアムの観客と同じ感動の渦に参加し、体験する喜びを提供するのが、日本のスタジアムである。

日本が提案する13のスタジアムのうち、8のスタジアムは2002年FIFAワールドカップ™でも使用されたスタジアムである。この8スタジアムを含む12のスタジアムが、既存のスタジアムである。これらの

スタジアムは、前述した次世代サッカーのためのシステム導入を含め、各種設備の更新、観客席の増設など、今後必要に応じて改修が行われる。

2022年FIFAワールドカップ™のために新たに建設される大阪エコ・スタジアムは、83,300人の観客を収容する。このスタジアムは、開幕戦及び決勝戦の開催が予定されており、ここから新たなレガシーが誕生する。

表：提案スタジアム一覧

No.	開催候補都市	スタジアム名称
1	札幌市	札幌ドーム
2	茨城県	茨城県立カシマサッカースタジアム
3	埼玉県	埼玉スタジアム 2002
4	東京都	東京スタジアム
5	東京都	国立霞ヶ丘競技場
6	横浜市	横浜国際総合競技場
7	新潟県	新潟スタジアム
8	静岡県	静岡スタジアム
9	豊田市	豊田スタジアム
10	大阪市	大阪エコ・スタジアム (仮称)
11	大阪市	大阪市長居陸上競技場
12	神戸市	ユニバー記念競技場
13	大分県	大分スポーツ公園総合競技場

持続可能な人と社会の発展(CSR活動)



FIFAワールドカップ™開催を通じた社会的調和の促進

FIFAワールドカップ™は、その祝祭において人々の意識を限りなくエモーショナルにする力を持つ。日本は、その可能性を最大限活用し、2022年FIFAワールドカップ™を、貧困、差別、教育など、世界が抱える社会的問題に正面から取り組むワールドカップとすることを宣言する。

選手、役員をはじめ世界中のファンを含め、2022年FIFAワールドカップ™に参加することがFIFA CSR活動に参加することを意味し、参加することを通じて、参加者自身が社会的問題の当事者の一人であることに気づき、参加者自身が問題解決のための具体的アクションを起こす大会とする。

日本が、2022年FIFAワールドカップ™の社会貢献活動として最も重点的に取り組む課題は、教育である。教育こそは、貧困に立ち向かう知識を養い、社会的差別の存在を認識し、その撤廃のために闘う力を与え、社会の調和を図るための英知をもたらすことができる。正しく教育を与えられるべき若者や子どもたちこそが希望であり、世界はいかに及ばず地球の未来を担っている。

“Universal Fan Fest in 208 Nations”を、FIFA CSR活動のプラットフォームとして活用

“Universal Fan Fest in 208 Nations”は、208の国と地域の人々がワールドカップの華やかで熱狂的な祝祭を楽しむだけでなく、FIFA CSR活動の全世界における展開の活動拠点、すなわちプラットフォームとして活用される。

国連などの国際機関、NPO法人、地域の行政組織、民間企業などの各種団体・機関が、Universal Fan Festを当該国・地域の社会的発展とよりよい未来を構築するための活動の場とする。さらに、世界中の社会的発展のための活動に資する寄付の要請など、全世界からの支援をアピールする場となる。

各当該国・地域のUniversal Fan Festで実施する活動や内容は、それぞれの国や地域の状況により異なる。持たざる国及び地域に対しては、単に援助を送るだけでなく、持続的に社会が発展していくための、人材の派遣や育成、進歩と技術のためのツールを備え付けることがその主題となる。一方、持てる国及び地域では、持たざる国及び地域が存在することへの人々の理解を促すとともに、それらの国及び地域への支援を広く企業や組織・個人に募り、参加者自身のアクションを惹起させることが主題となる。



JFAこころのプロジェクト

“JFAこころのプロジェクト”は、日本代表選手やリリーガーなど、現役・OB選手が日本全国の小学校の教壇に立ち、夢や目標を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さ、フェアプレーや助け合いの精神の尊さを子どもたちに伝えている。この活動は国内にとどまらず、海外を含めこれまでに1,735回のプログラムが実施され、約50,000人の子どもたちが参加している。

環境保護

日本では、地球温暖化対策や生物多様性の保全など、人類共通の課題である地球環境の保護に向けて様々な取り組みを行っている。1997年に採択された京都議定書では、日本は2008年から2012年までの第1約束期間において、温室効果ガスの6%削減を約束している。さらに政府は、2020年に温室効果ガスを、1990年比で25%削減すると目標を掲げている。

日本は、これまでに培ってきた最先端の環境技術や独自のノウハウを用いて、自然との調和と、持続可能な人類と社会の発展に貢献することを目指している。

JFAは環境省及び環境分野の専門家との共同作業により、「スポーツ大会の試合開催等におけるCO₂排出量の把握及び削減のためのマニュアル」をまとめている。これは、サッカーなどの試合開催時におけるCO₂排出量の把握方法を示すとともに、試合等の運営、競技施設までの移動、試合等の準備作業の、3つの排出につながるプロセスごとに、エネルギー、水、輸送、調達、廃棄物の各項目におけるCO₂削減のための手法をマニュアル化したものである。このマニュアルに基づき、JFAでは既にサッカースタジアムの試合時の環境負荷状況を把握するため、「JFAスタジアム環境調査」を実施している。

JFAとLOCは、こうした調査事例を参考にしつつ、今後、環境分野の専門家の意見を取りまとめ、「2022年FIFAワールドカップ™環境アセスメント指針」を定める。そして、この指針に基づき、2022年FIFAワールドカップ™の実施による環境と気候への影響を調査・分析し、徹底した評価を行う。

さらに、導き出された評価に基づき、「2022年FIFAワールドカップ™環境保護計画」を策定する。「環境保護計画」は、水、廃棄物、エネルギー、輸送、調達、気候変動などFIFAが掲げる6つの中核的課題に沿って設定される。計画には競技会の実施のみならず、準備及び事後における対応についてもその範囲に含まれる。

この「環境保護計画」は、2022年FIFAワールドカップ™におけるカーボンマイナスを達成するための、包括的なプログラムとする。



環境プロジェクト:クリーンスタジアム活動

「クリーンサポーター活動」は、試合終了後に行うスタジアムの清掃活動に、試合観戦に登場したサポーターに参加してもらい、ゴミの回収、分別を行うものである。子どもから女性、お年寄りまで、安全に快適に試合観戦ができることで世界から高い評価を得ている日本のスタジアムを、サッカーを愛するサポーターとともに維持し、スタジアムの環境美化、及び地域の環境保全を推進する活動である。2003年にスタートしたクリーンスタジアム活動は、年を重ねるごとにその輪を広げ、これまでにクリーンサポーターとして活動に参加した人の数は14,000人を超えている。

JFAグリーンプロジェクト

JFAは、芝生の校庭や広場が、21世紀のスポーツや豊かな地域社会の形成に重要な役割を果たすと考え、Jリーグとともに校庭や公共のグラウンドの芝生化を推進するプロジェクトを実施している。具体的には、グラウンド5面分(50,000㎡)の芝生の苗30万株をJFAが無償で提供する芝生化推進事業で、2008年には全国29箇所の小学校、地域のサッカークラブ、自治体等に提供した。





Jリーグ開幕



2002年FIFAワールドカップ韓国/日本™



1979年FIFAワールドユース選手権



AFCチャンピオンズリーグ



日本の実績

日本サッカーの奇跡的發展

日本サッカーの發展は、世界のサッカー界においても極めて希な、奇跡的とも言える成功事例である。

1993年、サッカー関係者の長年の夢であったプロフットボールリーグ・Jリーグが誕生した。Jリーグ発足に際しては、ジーコ、リネカー、リトバルスキー、ディアスなど、ヨーロッパ、南米、アフリカ、そしてアジアから、それぞれの国と地域を代表するプレーヤーたちが参加した。Jリーグはおおかたの予想を上回る大成功を収め、サッカーは一躍国内のメジャースポーツとなった。

プロリーグの設立と同時にJFAが取り組んだのは、FIFAワールドカップ™の自国開催であった。世界最高峰のプレーを、次世代を担う子どもたちにナマで体験させたい。そして、FIFAワールドカップ™という人類の祝典を、サッカー後進国といわれたこの日本で開催したい。

その夢は、世界のサッカーファミリーの後押しにより、2002年FIFAワールドカップ韓国/日本™という形で実現した。2002年FIFAワールドカップ™の開催に際し日本が掲げた目標は、最高のワールドカップを開催することにより、これまで日本のサッカーを支えてくれた世界のサッカーファミリーに感謝をささげることであった。

大会後、FIFAからは、2002年FIFAワールドカップ™に対し、“World Cup of Smiles” の評価が与えられた。この評価こそ日本が最も望んでいた評価に他ならない。日本の“感謝のこころ”が、世界のサッカーファミリーにしっかりと受け止められたと確信した瞬間であった。

JFAが培ってきたノウハウと経験

日本はこれまでに、2002年FIFAワールドカップ韓国/日本™、2001FIFAコンフェデレーションズカップ、1979年FIFAワールドユース選手権、第2回FIFA/JVCカップ U-17サッカー選手権など、FIFA主催の大会を開催・運営し、いずれも成功に導いてきた。

また、FIFAクラブワールドカップについては、その前身であるトヨタヨーロッパ/サウスアメリカ カップ(TOYOTA European/South American Cup)の時代から、2008年にいたるまで30年近くにわたり日本で開催してきた歴史がある。

一方、JFAが加盟するAFCにおいては、「AFCプロリーグプロジェクト」、「JFA DREAM ASIA PROJECT」など、AFCのモデル協会としてJFA独自の活動を展開することにより、アジア各国のサッカーの發展を支援してきた多くの実績がある。

「AFCプロリーグプロジェクト」は、“アジアを世界のサッカー先進地域へ”のスローガンのもと、各国間における多様性の融合と連携を強固なものにし、相互にレベルアップを図ることを目的としている。具体的な活動としては、JFAのプロジェクトチームがAFCに加盟する各国協会を訪問し、サッカー技術、施設、普及システムなど、様々な項目に及ぶ調査を実施。各国のサッカーを適正に評価するとともに、評価に基づきプロリーグ創設のための指導、助言など様々な支援を行ってきた。

こうした地道な活動が実を結び、JFAの助言と協力のもとにプロサッカーリーグが創設された協会もある。また、2002年には、アジアのクラブチームにとって最も権威のある大会である、AFCチャンピオンズリーグを創設した。AFCチャンピオンズリーグは、それまで行われてきたアジアクラブ選手権、アジアカップウィナーズカップ、アジアスーパーカップの3つの大会を發展的に統合したものである。さらに、2002年FIFAワールドカップ™のレガシーとして、域内のサッカーの發展とサッカーを通じた平和への貢献を目的として、東アジアサッカー連盟を設立。日本にその事務局を置いている。

日本はこれまでアジア地域におけるサッカーの普及、競技力の向上など、サッカー發展のための貢献策を積極的に行ってきた。2022年FIFAワールドカップ™開催の榮譽が日本に与えられるならば、その開催及び実施を契機に、こうした活動をアジアのみならず広く全世界の各地域に展開していく。これまでJFAが培ってきた多くの経験とノウハウのすべてを、世界のサッカー發展のために提供するものである。

日本だからこそ実現できる、 “次世代ワールドカップ”

日本の提案は、これまでの視点とはまったく異なり、“私たちの国に来てください”という主張ではない。日本が提案するのは、ワールドカップの興奮と感動、そしてワールドカップが持つ社会発展のためのソリューションとしての価値を最大限に発揮する、次世代のワールドカップを実現することである。さらに、2022年FIFAワールドカップ™を契機とした、永続的な世界サッカー発展と持続可能な社会と人の発展に貢献することである。

確かに、20年の間を置いての開催は早すぎるとの印象があるかもしれない。

しかし、もう一度考えてみてほしい。12年後に開催される2022年大会の開催国を決めるということは、この先10年間のサッカー界の発展と方向性を決めることに他ならない。

その間には情報のグローバル化はさらに進行し、国際社会はますます多極化、多様化する。それに伴い、人々の意識や価値観も大きく変化するであろう。そうしたなかには、サッカーも、また、ワールドカップも大きな進化が求められるはずである。

その意味では、世界サッカーの永続的な発展を促し、さらに社会発展のためのソリューションとして価値を高める“次世代ワールドカップ”の実現は、世界のサッカー界にとってまさに急務であるといえる。

そして、それらの要件を満たす“次世代ワールドカップ”は、日本だからこそ実現できる。

なぜなら、

- 日本には2002年大会を開催し、成功に導いた貴重な経験が残されている。
- 日本には、ワールドカップをドラスティックに革新するための構想が用意されている。
- 日本には、“次世代ワールドカップ”を実現するための最先端のテクノロジーがある。
- 日本には、“次世代ワールドカップ”を開催するための優れた運営能力がある。

そして、

- 日本には、“208 Smiles”を世界中の人々に手渡すホスピタリティがある。

日本は、2022年FIFAワールドカップ™開催地への立候補と同時に、招致委員会内にヒューマニティ&テクノロジー部会を設置、“次世代ワールドカップ”に向けた検証を既にはじめている。さらに、ファイナンスを含むあらゆる領域における、“次世代ワールドカップ”実現にかかるフィジビリティスタディを開始している。

次世代ワールドカップ・2022年FIFAワールドカップ™の日本開催に、なんら問題はない。

